

大 学 史 研 究 通 信

第 73 号、2013 年 1 月 28 日 (火)

大学史研究会

第 73 号の内容：第 35 回大学史研究セミナー報告・ロジャー・ガイガー教授講演会のお知らせ・第 36 回大学史研究セミナーのお知らせ・会費納入のお願い・会員新刊ニュース・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・編集後記

第 35 回大学史研究セミナー報告

セミナーの開催をお引き受けして

出光直樹 (横浜市立大学)

前事務局の福留さんから、横浜市立大学での開催をそれとなく打診されたのは、2005 年 12 月に東京工業大学で開催された第 30 回研究セミナーの時だったように記憶しています。それ以来、研究セミナーへの参加そのものがご無沙汰となってしまいましたが、この度ようやく会場校をお引き受けすることができました。首都圏とは言え横浜市の南部というやや不便なロケーションにも関わらず、30 名を超える方々をお迎えして無事に終えることができ、ほっとしております。

シンポジウムの企画については、“地域”というキーワードの素朴な提案と、本学の高橋寛人教授をシンポジストにご紹介させて頂いたのみで、企画内容の深化については担当の井上さんを始めとする事務局の皆様にご依頼となりましたが、おかげさまで公立大学の存在意義に関わるテーマでの興味深い議論をうかがうことができました。また二日目の自由研究発表につきましても、日々の実務に追われている勤務校において新進気鋭の研究内容を聴くことは、誠に贅沢なひとときでありました。

今回、学部 of 学生に運営のお手伝いを頼みましたが、非常に知的な刺激を受けたようで、来年のセミナーにもぜひ足を運びたいと申し添えておりました。シンポジストの先生方、自由研究発表の皆様、事務局そしてご参加頂いた皆様様に、篤く御礼申し上げます。

セミナー参加記

船勢肇 (大阪芸術大学・大阪府立大学・阪南大学)

第 35 回セミナーシンポジウムに参加した。シンポジウムは「日本における大学と地域社会の関係」であった。加えて、懇親会でも何人かの参加者・報告者の方々と話したのだが、なにより地域概念の多義性を感じずにはいられなかった。大学と地域の関係について、専門人の育成・地域の人口増などによる経済活性化・産学連携・就労機会の拡大など、多様な視点から分析されていた。これは大学と地域との関わり方が決して一元的ではなく多様な可能性をもつ、という受け取り方が可能なのかもしれない。

しかし、報告者や参加者の間にかかる多くの相違点がありながらも、おそらく共通した思考も存在していたように思える。それは、大学が拙速な「ニーズ」に左右されるべきではなく全体性への志向を持ち続けるべきであるということと、何らかの形で地域と有機的な関係が結ばれるべき、と考える点であろう。さらに、ここでは次の 3 点を付言しておきたい。

第1に、大学が普遍性・全体性への志向を保ち続けることと、地域と関係をもつことを大学史研究を通じてどのように考えることができるのか、である。

たとえば、筆者が所属した大阪府立大学は「改革」が叫ばれ、ローカルニュースでも取りあげられることがあった。そのとき、大学の価値を——スマートとか派手とかなど——表層的なイメージで評価しようとする報道があった。たとえ地味であったとしても、全体性への志向を持ち続けることで責任を負うのが大学だと考えるが、このような浅薄な「地域のニーズ」に対抗したり修正を迫ったりする契機を大学史研究を通してどのように見出すのか、である。これは大学と地域（あるいは大衆社会）との関係論として考察にふまえるべき点であろう。

第2に、コミュニケーションの場としての地域である。地縁的結合が薄れ、近年は特に人と人とを結びつけるコミュニケーションの場として地域が重視されることがある。こうした視点からなされる地域史形成と大学史研究を結びつけることはできないだろうか。（もともと、学内に限ったコミュニケーションすら研究はまだまだ少ないのかもしれない）。

第3に、2点目とはまるで逆のことに聞こえるかもしれないが、大学と地域とがどうしても相容れない点を追究することである。このようにいえば、「いまさら象牙の塔に閉じこもるのというのか」といわれるかもしれない。しかし、大学（全体性への志向をもちながら専門性を追究しつつ教育する場）と地域（人びとの日常生活の場）とがどうしても相容れない宿命をもつと考えることは、近代以降において好むと好まざるとに関わらず存在してきた社会分業の不可避性から目をそらさないということでもある。「相容れない点とは何なのか」とつきつめて考察することは、地域との有機的な関係を考えるためにも、不可欠な条件のように思える。有機的な関係とは、それぞれの差異を認識すればこそ生じるものではないだろうか。かつての大学自治論もかかる観点をふまえて生み出されたものであった。

筆者が以上の課題に対してどれほど考察してきたのかと考えると、恐縮するばかりではあるが、憚りながら愚見を弄した。

ロジャー・ガイガー教授講演会のお知らせ

『通信』第72号でお知らせしましたように、ロジャー・ガイガー（Roger L. Geiger）教授が2013年2月に来日され、東北大学高等教育開発推進センター主催・大学史研究会共催によるセミナーが開かれます。セミナーの講演題目・日時・場所は以下のとおりです。詳しくは、同封の案内をご参照ください。

講演題目：アメリカにおける大学史研究の動向と課題

“Writing the History of American Higher Education”

日 時：2013年2月12日（火） 15:00-17:00

会 場：東北大学東京分室

（〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピアタワー10階）

*参加ご希望のかたは、以下のサイトからお申し込みください。

【PDP】アメリカにおける大学史研究の動向と課題（東京会場）

https://www3.he.tohoku.ac.jp/pd/index.cgi?program_num=1357786794

【サピアタワー入館方法】

当日は、サピアタワー3階オフィス総合受付で「当日入館（ゲスト）カード」をお受け取り下さい。ゲストカードへのご記入は不要です。詳細は、東北大学東京分室のサイト「入室案内」（下記URL）にて掲載しておりますのでご覧ください。また、当ビルは2階がございません

のでご注意ください。<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/somu/bun/bun.html>

なお2月13日は、東北大学（仙台）において講演会「アメリカにおける産学連携—現状と課題（“University-Industry Cooperation and the Innovative University in the U.S.”）」が開かれますので、あわせてお知らせいたします。

（事務局通信担当：五島敦子）

第36回大学史研究セミナーのお知らせ

第36回大学史研究セミナーは、ウィスコンシン大学のAdam Nelson教授をお招きし、中央大学後楽園キャンパス（〒112-8551 東京都文京区春日1丁目13-27）にて開催いたします。開催の日程につきましては、10月26日（土）・27日（日）を予定いたしております。セミナーの詳細が決まり次第、本通信およびホームページ上でお知らせいたします。

会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたしております。

（事務局セミナー担当：深野政之）

会費納入のお願い—2012年度までの年会費未納の方へ—

本通信に記載の会計報告のとおり、大学史研究会の収入は、会員各位からの年会費（一般会員：5,000円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員：3,000円）に大きくよっております。2012年度の全会員数に対する年会費納入率は69.7%であり、未納の会員も少なからぬ状況です。

そこで、2012年度の年会費納入依頼通知はすでに昨年中に発送済みではありますが、2013年1月31日現在、過年度分の年会費が未納の方につきましては、年会費納入依頼通知と払込票を再送させて頂いております。研究会の円滑な運営と発展のために、ご理解ご協力をお願い申し上げます。詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。未納年度分の年会費の合計金額を明示しております。

また、年会費3ヶ年度分以上の滞納の会員各位につきましては、研究会への継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、『大学史研究』（紀要）等の発送を停止する規定になっております。該当する会員各位へのご連絡通知にはこの点も記載されておりますので、こちらもご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

年会費納入払込先

郵便振替口座：大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座：大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店（店番671）
普通預金 口座番号 3456109

（事務局会計担当：山崎慎一）

会員新刊ニュース

R.D.アンダーソン著、安原義仁・橋本伸也監訳『近代ヨーロッパ大学史—啓蒙期から1914年まで—』昭和堂、2012年11月。

『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

『大学史研究』編集委員会では、25号の編集ならびに26号の企画を検討しております。詳細は、総会報告をご覧ください。自由投稿論文につきましても随時受付しておりますので、担当事務局員の岡田宛て（電子メール：daishi@home.nifty.jp）にご連絡ください。次回編集委員会は2月2日に開催し、続けて、3月、4月にも開催する予定です。

事務局からのお知らせ

会計からのお知らせにあるとおり、今年度会費を未納している方の封筒には、払込用紙が同封されています。本研究会の会費納入率は7割を切っており、単年度で見れば決して健全な状況ではありません。学会財政の健全化のためにも、ご協力をお願いいたします。また請求書・領収証などが必要な方は、その旨ご連絡ください。

編集後記

同封のご案内のとおり、ロジャー・ガイガー教授の講演会が、2月12日に東京丸の内サピアタワーにおいて開催されます。皆様のお越しをお待ちしております。なお、第35回大学史研究セミナーの、事務局からの報告につきましては、前号をご覧ください。

（事務局通信担当：長谷部圭彦）

『大学史研究通信』第73号の編集は、事務局・長谷部圭彦が担当いたしました。

連絡先：hasebekiyohiko@hotmail.com

『大学史研究通信』第74号は、2013年4月30日発行予定です。

大学史研究会事務局

<事務局連絡先>

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学法学部 研究室受付 岡田大士気付 大学史研究会

Tel&Fax: 042-674-3151 E-mail:daishi@home.nifty.jp

ホームページ <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表 E メールアドレスまでお願いいたします

E-mail: jshshe@daigakushi.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

浅沼 薫奈（大東文化大学）

井上 美香子（九州大学大学文書館百年史編集室）

岡田 大士（中央大学）

五島 敦子（南山大学）

長谷部 圭彦（東京大学）

深野 政之（一橋大学）

山崎 慎一（桜美林大学）